

樂後稱八矢。八矢儀岡山にての首尾を、安見隠岐よりは先の様に申けるを、隠岐聞て申けるは、我等は其方より先に敵とたゝきあひ、手負組討に成候。去共敵力勝り我等下に成たる時、伴雅樂助すけると云て上の敵をはねのけたり。然ればそなたは我等よりは後なりと云ふ。是にて雅樂つまる。

一、八王寺陣の功名と討死

八王寺陣の時近藤藤出羽をば、大音主馬突伏て首取たり。出羽も渡り合せ、互にせり合ひぬ。中山勘解由・狩野一庵はそこを突ぬけて落行く。其後徳川家へ一萬石にて罷出、水戸家へ御附被成候。前田又次郎・高島平左衛門・篠原勘六・不破彦三・富田六左衛門・村井又六郎・宮崎藏人等も皆手に合ひぬ。戦死は脇田小五郎・湯原八丞・九里庄左衛門・市橋清十郎・北村甚八・半田半兵衛・野村傳兵衛・荒木善太夫・日根野九兵衛、小姓馬廻二十九人も。

一、金澤城炎上と瑞龍公御隠居

此雷火に城燒失の事は寛政七年十一月晦に候べし。分明の所候あり。慶長十年十月晦、雷火にて金澤城天守より火災して不殘炎上す。此時天徳夫人及公女は興津内記宅、女中等は中川宗半宅へ入る。此時鐵炮の藥庫へ火入て夥敷響騷動也。冬よ

り普請起り明春城郭出來す。但此時より城中天守止みぬ。三階の櫓出來す。江戸・駿府へ木村主計御使にて、瑞龍公御隠居にて富山へ被召入は慶長十一年のこと也。此時より富山へ御隠居也。此時相従ふ衆中横山山城守・神尾圖書・淺井左馬・篠原出羽守・篠原彌助・今枝内記・宮城采女・水原左衛門・近藤甲斐・稻垣與三右衛門・脇田九兵衛・宮崎藏人・津田庄左衛門・古江次右衛門・長田牛助・土肥少兵衛・田邊助太夫・吉田逸角・行山傳右衛門・佃源太郎・杉本覺丞・團七兵衛、其外郡奉行・町奉行・物頭等追々引越。慶長十四年三月十八日富山城下颯川の邊より御隠居失火、御城以下士商の家不殘燒失。神戸清右衛門居宅無恙に付、瑞龍公四五日是に被成御座、魚津にて青山佐渡居第八被成御座候。

富山は火災有之地のよしにて、御城を關野へ御移し可然とて、其趣宮崎藏人を御使とし江戸・駿河へ御示談の所、御勝手次第との儀にて日夜御普請有之。同年八月十六日魚津より御移り、改名高岡城。

一、高山南坊等の追放

慶長十九年三月、内藤徳菴二千石・高山南坊二千石・宇喜多入齋千石・品川右兵衛千石・柴田權兵衛百石此五人耶蘇宗門にて固く不轉が

故に、西洋國へ放ち遣す。鈴木孫左衛門轉ぶといへども、内心は不轉の旨訴人ありて殺害也。南坊・徳菴兩人異國渡海の時、大坂より雖被招不應。佐々内藏助成政・小西播津守行長・明石掃部等、皆堅き耶蘇宗と云。

一、芳春夫人の御歸國

芳春夫人慶長十九年六月江戸より御歸、高岡に十日許御逗留候て金澤へ被成御座候。

一、太閤の藏入は二百萬石

太閤の金賦りは便ち高德公の邸内にて行はる。天正十三年正月太閤の藏入二百萬石、此時黄金千枚分銅を作らる。其餘分黄金五千枚・白銀三萬枚、諸侯へ割賦なり。

一、東丸様の御母儀

或云。微妙公の御生母おちよぼの方、後は東丸様といふ。西丸とも此人の御母儀は天下無双の美人也。然共夫にはなる事四人也。小幡右京・小幡宮内・東丸様同種也。其外堀三郎兵衛妻・九里覺右衛門妻・田邊助太夫妻・本保次右衛門妻・黒田逸角妻・栗田傳兵衛妻皆同腹也。實は上木氏の女にて、其女子を携へて小幡へ嫁したり。

一、大坂兩度の御陣觸

慶長十九年瑞龍公薨後、微妙公御忌明に付江戸へ御越、十月上旬江戸御發駕、十日には境に御止宿の所へ江戸より飛夫出來、大坂表へ御出陣の儀申來る。同日申刻御首途、十一日に金澤へ被爲入、十三日に御先手發出、公には十四日御發駕也。十二日に陣觸有之、軍役等御定書出たり。元和元年四月の頃も江戸に被成御座候。御歸國は東海道より御越、越前今庄に御止宿の所へ又江戸より飛夫出來、大坂御出陣申來る。今庄より一日に金澤へ被成御座、大坂岡山に御先手也。

一、羽咋村百姓諸役御免の文書

羽咋村の百姓等以目安申候條、被遂穿鑿候處、大納言様以來諸役無之筋目を以て、中納言様より目安奉行へ被仰付、彼墨附有之上は彌不可有諸役、年來公儀へ上候塩釜役並船の御用等不可有無沙汰者也。

慶長十一年
九月十六日
南坊等伯
江守平左衛門元家
岡島備中守一吉